

港合同

全国金属機械労働組合 港合同

大阪市港区南市岡3-6-26

TEL 06-6583-4858

FAX 06-6583-4600

記事は大阪市職港区役所支部の機関紙「灯台」
二〇一七年夏号に掲載された報告です。

機関紙編集委員会

南大阪平和人権連帯会議沖縄現地学習会に参加して

辺野古新基地建設阻止！ 沖縄闘争に連帯しよう！

去る六月二日から四日までの三日間、南大阪平和人権連帯会議の沖縄本島での平和学習に官民から十六名が集まり、港区役所支部からも三木、中山が参加させていただきました。

初日にまず、普天間基地の移設工事が進む辺野古にいきました。移設現場を間近で見る事ができ、その現状を『基地をつくるな』と十年以上も座り

込みを続けておられる現地の方が説明してくださいました。

現地の方は「移設」ではなく、「新基地建設」というそうです。その理由が、嘉数高地から普天間基地を見下ろして分かりました。

普天間基地は内陸であり、海からは離れてあり、またその滑走路は凸凹しており飛行場としての機能は発揮できていないと

のことでした。

一方で、辺野古の基地は海に面するように埋め立てが行われ、V字型の滑走路、軍港、弾薬庫と、普天間には存在していないものまでも建設されるそうです。

現地の方が移設とは言わない、言えない理由が分かりました。また、次に向かった普天間基地近くの沖縄国際大学には、二〇〇四年に基地のヘリが落下した傷跡が痛々しく残っていました。

二日目は、嘉手納、沖縄戦を軸とした作品を創作されている彫刻家・金城実さんのアトリエ、憲法九条の碑がある読谷村

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

役場、チビチリガマ、シムクガマに訪れました。

最終日には、病院の機能を移した南風原陸軍病院壕、軍と住民が同居した系数壕、平和の礎、病院壕の看護要員となった「ひめゆり」の塔・ひめゆり資料館、魂魄の塔・米須海岸と、地上戦の激しかった南部を回りました。

沖縄の情勢は皆さんも新聞や各メディアを通じてご存知だと思えますが、沖縄に足を運び戦争の跡地を目にすること、そして現地の方のお話を直接聞くことに意義を感じました。

金城さんは、当時の工

ピソードや想いを力強く語って下さいました。

「同級生の中で、高等学校、大学へと進学したのは唯一私だけだ。なぜか。俺の父もそうだが、戦争によって親が死に、進学するお金がないから。俺の場合は、父の遺言で進学するようにと、異国に住んでいた叔母がお金を送ってくれていたから進学できた。

戦争で皆の親が死んだから俺は学校に行けたのだ。同級生は立派な彫刻家になってすいねと言ってくれるが、皆の親の死が俺を彫刻家にしてくれたのだと思っている」と。

また、現地の知花昌一

さんのご案内の下、「チビチリガマ」に入らせていただくことができました。

そこには今もなお人骨や当時の薬品瓶などが残っていました。

チビチリガマには、アメリカ軍に投降するくらいならお国のために自ら命をささげるという当時の教育の下、わが子を自らの手で殺めた母たち、自分を毒針で刺してくれと列をつくる人たち・・・。「集団自決」とよく言われますが、「集団強制死」という言い方が正しいのではとのことでした。

その後、近くのシムクガマにも案内していただ

きました。

ここでは住民はアメリカ軍に見つかったものの、ハワイ在住が長かった方が「アメリカ人も心を持った人間だ」と軍と交渉したため、チビチリガマとは対照的に多くの命が残ったとのことでした。

「戦争の教訓はたった二つ。一つは軍隊は住民を守らないということ。もう一つは教育のおそろしさと大切さ。」という知花さんの言葉が、二つのガマを訪れ、深く印象に残りました。

平和ガイドの本村さんは二つの数字を強調されていました。

終戦から「七二」年、

沖縄返還から「四五」年。まだたったそれだけしか経っていない、戦争は最近の出来事だと気付かされました。沖縄の話だから私たちに関係ないなどということはありません。米軍基地の電気、ガス、水道、電話代は日本の税金「思いやり予算」で賄われていますが、米兵が自国に帰る時は、カビ対策のために数カ月間もクーラーをつけたまま家を空けるといいうこともあるそうです。

本村さんが「沖縄にいると日本が良く見える」といっていました。その意味が三日目にはよく分かり、私たち自身も政治を注視していかなければならないし声をあげていかなければならないと感じました。共に頑張りましょう。

最後になりましたが、今回このような平和学習に参加させていただけたのも皆様のお力、御支援があつてのことです。現地で戦争のおそろしさ、命の尊さ、平和への祈念を肌で感じ、考え方や捉え方が大きく変わりました。

このような貴重な体験をさせていただき、心よりの感謝申し上げます。

【三木・中山】

辺野古の現状 報告会に参加して

盆休みの十五日、全港湾建設支部元副委員長の宮崎さんから、辺野古の現状についてお聞きする機会がありました。

宮崎さんは今も建設支部の組合員として一年の大半を辺野古の闘争に費やし中心として活動されていると多くの人が言われています。

南大阪の訪問団でお聞きした事と、今回の報告とを重ね合わせると如何に新基地建設はいいかげんなものかと改めて思いました。

辺野古崎は、基地建設に適していないという事が色々な調査によって明らかになりつつあるという事です。

沖縄には数多い鍾乳洞（ガマ）があり、海底にあつても不思議な事はなく、断層が近くに、もしくは海底にあるのではないかと言われていました。

五月の時には平和ガイドから同じような事が言われた事を思い出しました。

基地建設の行程表は虫食い状態で、とてもじゃないが予定通りの完成はあり得ないということでした。

それでも日本政府は、惜しげもなく金を投入し、



何年かかろうとも新基地建設に邁進するようです。ゲート前や、建設現場に配置されたガードマンの費用だけでも相当な金額になるようです。

瀬嵩の海岸（左写真）の近くに昨年オスプレイが墜落しました。米軍はこれを不時着と言っていますが、海岸の五キロ先

に、キャンプシユワブがあるのに、そこまで持ちこたえる事ができずに墜落した事は明らかです。

墜落したオスプレイは尾翼に「竜」と描かれていて、隊長機であった事。同じように飛行していた一機は、普天間飛行場で胴体着陸している事などが明らかにされました。

基地建設現場は、埋め立てるための土砂や捨石などがダンプカーで運ばれてきています。しかし、そのまま投入すれば海は汚れるので水で汚れを取り除かなければ搬入できないことになっていきましたが、某建設会社はどのような設備はなく搬入を

一時的ですが設備のある会社からになった事など、闘いによって得た成果も報告されました。

反対闘争では、多くの弾圧が明らかになっていきます。最近の傾向として、ダンプカーの前に立ちほだかって搬入を阻止しようとする、「道路交通法

違反」として拘束する動きがある。ということでした。

この三カ月間、沖縄訪問の記事を掲載してきました。南大阪では来年も取組むとともに、新基地建設に反対する運動に引き続き連帯しましょう。

中村吉政

みんなのしんく
おいしいちゃんも おはあちゃんも 子どもたちも
組合同級会員も NPOみなと会員も いっしょに

第39回
2017交流秋まつい

10月29日(日)
10時スタート
田中機械構内
(キングマシオン館)
入場無料/雨天決行

屋台
歌と演奏
カラオケ
将棋
コーナー
パズル
パズル
ピンコ
ゲーム
子ども
コーナー
ほか

主催 企画 全知念屋機械株式会社組合員会 / 後援 同 ちのこまきあひ委員会
共催 同 竹芝区民協賛会/NPO女性
お問い合わせ 06-85598464